

文学的な文章に関心を持ち、 叙述を基に想像を広げて読む力を育てる指導の工夫 —「行動を表す叙述」に着目させる言語活動を通して—

国語班 早川留美子（小学校教諭）

児童の実態

文学的な文章の
受動的な読み

読み方が分からない

読みの力が
積み重ならない



手立て1

主体的な読みを
促すための
言語活動の設定

手立て2

行動を表す叙述に着目し、
想像を広げて
読ませるための工夫

手立て3

身に付けた読み方を
副教材に適用させる
活動の設定

相手意識・目的意識を持たせる
単元を貫く言語活動を設定する

実践① 音読発表会を開こう

教材名「お手紙」(2年)



5年生に、物語が良く
伝わるように音読したい。

2年生でこんなに
すらすら読めるなんてすごい。

実践② 物語のお気に入り場面を
ペープサート劇で紹介しよう

教材名「きつねのおきやくさま」ほか(2年)

1年生に、
「お話の続きを知りたい」って
言われるようにペープサート劇を
したい。



2年生は上手だな。
もっとお話を聞きたいな。

全文シートで、根拠となる叙述に
サイドラインを引かせ、
考えを書き込ませる

がまくんが「とてもいいお手紙だ。」つて
言ったのは、かえるくんが書いたお手紙に
『きみの親友』つて書いてあるからだ。
「感動しているように読む。」とメモしておく。



メモしてあることを
基に読んでみるから
聞いていてね。

ペープサート劇をしながら、
登場人物が「どのように言ったか」
「どのようにしたか」考えさせる

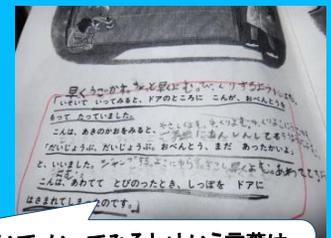
きつねは「どのように言ったか」
「どのようにしたか」考えながらやってみよう。



主教材を読んだ読みの視点を
生かして並行読書をさせる



「きつねのおきやくさま」で勉強したのと同じよ
うに、自分で選んだお話も、ペープサート劇
をするのに大切な言葉を探して印を付けよう。



「いそいで いってみると」という言葉は
大事だから線を引こう。ペープサートを
早く動かして、急いでいる感じを出そう。



文学的な文章を読むのは楽しいな。

「言ったこと」や「したこと」に気を付けて読んでみよう。

他のお話も読んでみたくなったよ。



- 提言
- 低学年では「行動を表す言葉」に着目させることが大切。
 - 音読やペープサートを取り入れた言語活動は、行動を表す言葉に着目させるのに有効。
 - 身に付けた読み方を副教材に適用させる活動を設定し、読みの力を積み重ねていくと良い。